

# 三郷地域畜産悪臭対策協議会の取組紹介(令和5年度)

令和6年5月 三郷地域畜産悪臭対策協議会事務局

平成24年に発足した三郷地域畜産悪臭対策協議会では「三郷地域における畜舎及び家畜排泄物処理施設等から発生する悪臭等を防止し、市民生活環境の保全を図る」ことを目的に設置しています。本対策協議会の委員は安曇野市の農政・環境行政に参画する形で問題解決に取り組んでいます。

## ○対策協議会(年3回開催:6月、11月、3月)

本年度から新規に畜産農家1名が委員に加わり、各区選出12名、畜産農家3名、県関係職員3名、畜産関係機関3名、市職員で畜産悪臭に対する課題の確認と課題解決に向けた取り組み等の協議をしています。

### ～対策協議会での質疑応答から～

委員:環境課で行っている敷地境界での臭気測定の結果、臭気指数の規制基準値15を超えた農家があるがどのような対応をして何を改善したのか。

農家:言い訳になるが、従業員の数人が足りない時に堆肥をすくい上げる回数がどうしても減ってしまった時が臭気測定を行った時期である。堆肥は別の地区に持って行くが、牛がいる所から堆積場所への移動が遅れ堆肥が溜まった状態になり、基準の臭気指数を越えてしまった。従業員を工面してすくい上げる回数を多くし、堆積場所へ移動するとこのような問題も無くなってくると考えてる。

しかし、このような状況がまたいつ起こるか分からないので、堆肥の臭気を落とす方法を常に考えている。業者と酵素やバクテリアなどの力を借りて臭気を抑える取組の話をしている。弊社もこの安曇野以外の飯田の方でも牧場があり、そちらで試験的なことをやっている。牛舎の臭い自体の軽減についても改善できそうだと思っているところはあるので、今後も報告させていただければと思う。

委員:堆肥の管理が出来ていればこういうことはないのか。

農家:そうです。この時は従業員のシフト的な部分で厳しかった所があり、牛舎から堆肥を取り除くのが遅れ堆積して臭気が増えてしまった。

## ○対策協議会委員による農家視察(年2回開催:9月、10月)

令和5年9月20日(水)と10月12日(木)に農家視察を行いました。家畜の飼育環境や堆肥の処理方法を実際に見て、畜産農家からどのような作業や臭気対策を行っているか説明を受けました。

視察をすることで、問題点がどこにあるかを現地で確認し、課題を協議会に持ち帰り検討を行います。

### 【農家視察の感想】(各委員からの感想より抜粋)

【委員①】A牧場、B牧場の視察に行きましたが、B牧場の畜舎の中を見てこの環境では悪臭は出るなと感じました。B牧場は浄化槽がだいぶ臭いました。浄化槽からはだいぶ臭いが出ていましたが、その周りの臭いは薄かったように思います。

【委員②】C牧場の視察に行きました。畜産の関係だから、あの程度の臭いはしょうがないのかなと思いました。でも、この臭いが出てくるのが、糞尿を畑に撒いた後の処理が悪くて、臭いが出るっていうのがあります。畜産施設から出る臭いより、畑に撒いたときの悪臭が大変かなと思っております。

【委員③】全ての視察に参加させていただきました。A牧場は、どうしても浄化槽の落ち口のところの臭いはちょっときつと感じました。畜舎の整理整頓についてはできていると思うので、浄化槽の臭いを低減する良い方法があればなと感じました。B牧場は、昨年よりは整理整頓も進んでいて、臭いについてもこんなもんだらうとその場では思いました。水分調整のところを見直せば、かなり効果があるのではないかなと思いました。

C牧場は非常に綺麗に飼育していて、臭いもなく良いなと感じました。

農家視察の様子



### B牧場周辺環境の改善結果



排せつ物の処理水を牧場北側の排水地で地下浸透処理をしています。以前は汚泥が地下浸透されずに池のように溜まっていた。そこで処理方法を見直しを図った結果、汚泥が溜まることなくスムーズな地下浸透処理が可能となりました。

## コラム：「温暖化」と「におい」のよからぬ関係？

一般的に、湿度が高い(空気中の水蒸気が多い)と「におい分子」が留まりやすくなります。

雨上がりに草木の香りを強く感じるのはこのためです。

また、温度が高いと「におい分子」が揮発しやすくなり、よりにおいを感じやすくなります。

温かいコーヒーが冷たいコーヒーより香り高いのはこのためです。

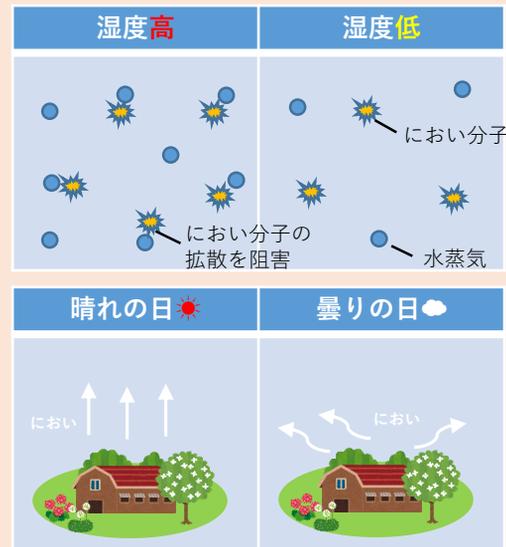
空気の動きも関係します。晴れた日は上昇気流でにおいは上に運ばれますが、曇りの日は上昇気流がなく、においが地上付近に留まりやすくなります。

地球温暖化が進むと気温は高く、水蒸気量は増える傾向があるため、悪臭対策に関しても「温暖化」はやっかいな相手と言えます。

「カーボンニュートラル」への取り組みを進めても温暖化傾向はしばらく続くと考えられるため、これまで以上に悪臭対策を行わなければ、改善はおろか、現状維持すら難しくなることも考えられます。

良好な生活環境を維持していくためには、すべての人が悪臭を出さないように努め、環境に配慮していくことが大切です。

また、悪臭を一事業者の問題ととらえず、利益を共有する関係者の総力で解決の糸口を見つけていくことが必要です。



### ○令和5年度上長尾畜産団地での臭気確認状況等について（3月末集計）

三郷地域各区、畜産団地周辺にお住まいの市民にご協力いただきながら、令和5年度は以下のとおり臭気発生状況の確認や悪臭苦情への対応を行いました。

#### 1. 臭気モニターによる確認状況

臭気確認件数は全体で692件でした(前年度は469件)。臭気強度別に前年度と比較すると、強度1(やっと感知できるにおい)、強度4(強いにおい)、強度5(強烈なにおい)の件数が増加しました。

#### 2. 公害監視員による確認状況

臭気確認件数は前年度と比較して夏季は減少したものの、春・秋季で増加し、全体でも増加しました。また、牧場周辺の管理状況(清掃・整頓)が悪化しているとの報告があったため、職員も現場を確認しています。臭気確認結果は集計し、事業者へ情報提供して工程管理や悪臭対策の一助としてもらっています。

#### 3. 臭気指数測定の結果

夏季に行った測定で、2事業場で各1回、この地域での敷地境界線での規制基準である臭気指数15を超過しました。原因について、一方は堆肥化のための“おがくず”を混ぜる作業が遅れたためと言い、もう一方は、臭いを抑える機能のある敷料へ入れ替えるために古いものを出したタイミングで測定があったためとの説明がありました。一時的であったとしても臭気指数の悪化は市民の生活環境に悪影響を及ぼしかねないため、文書により測定結果を通知するとともに、施設等の適正管理を促しています。なお、冬季に行った追加測定では、どちらの事業場も規制基準値内でした。

#### 4. 畜産臭気ホットラインへの通報（安曇野市代表番号 TEL：71-2000 24時間受付可能）

市民の皆様から15件の通報がありました(前年度は21件)。その都度職員が現場を確認し、該当の事業者へ連絡及び対応を依頼しました。令和5年度の傾向としては、処理が不十分な堆肥が散布された圃場が原因のにおい苦情が多くありました。処理が不十分な堆肥の野積みや畜産悪臭を確認した際はご連絡ください。

#### 5. 安曇野市の対応方針

安曇野市では、より良い安曇野の環境を実現するための行動指針を示した「環境基本計画」と、その具体的な取り組みを定めた「環境行動計画」のなかで、臭気指数規制を適切に運用し、規制基準を超過する事業者をゼロにすることを目標としています。しかし、いまだ達成できていません(上長尾畜産団地については、令和2年度を除き未達成)。畜産悪臭対策には、糞尿の早期分離と搬出、清掃、断熱・換気、腐敗防止、施設の乾燥といった日常的な管理の徹底のほか、特に民家から近い場所で畜産を営む場合は、資材や設備、周辺環境の保全等への相応の投資以外に根本的な解決への道はないと考えられるため、協議会等の場を通じて畜産関係の皆様へ措置をお願いしていきます。

また、令和5年度の臭気確認状況や測定結果の悪化要因を現時点で特定(気候/管理状況/その他)することは難しいですが、市民の生活環境に直結する問題のため、対策を強化していきます。具体的には、要請に応じて、におい対策の専門家を招聘するための予算を計上するなどし、事業者が行う悪臭対策を支援します。



環境基本計画・行動計画に関する詳細はこちらから